

## 学校図書館の活用 ～子どもたちの主体的な学びの支援

### 学校図書館のさらなる活用

各学校で教員と学校司書が打ち合わせを行い、学校全体の読書指導・学校図書館活用授業が充実しています。本に触れる機会を増やすことで、読書の幅や質が高まり、豊かな心が育まれます。



### 読書活動の新たな展開 ～小・中連携の読書活動

中学生が、葉書き形式で読んで本のおもしろさを紹介したり、中学生の図書委員が小学生に読み聞かせをしたり、また小学生が調べたことを中学生が英語の授業で活用する等、小・中学校の交流が深まっています。



また、ビブリオバトルや読書会等の新しい手法も積極的に取り入れ、読書への興味・関心・意欲を育てています。

### 調べる学習が大きく前進 ～学校図書館を活用した授業の活性化

「平成27年度全国図書館を使った調べる学習コンクール」に応募した区内小・中学生の数は7580人で、平成26年度の応募数より3割程度増えました。平成27年度は全国からの応募が7万56人でしたが、荒川区の子どもたちが1割を占め、多くの子どもたちが自分のテーマを決め、さまざまな情報から必要な情報を取捨選択し、自分の考えをまとめました。

調べる学習コンクールだけでなく、各小・中学校の授業で学校図書館を活用することが活発になっています。図書館資料とタブレットPCを併用し、自分の課題解決に必要な情報を集め、友だちと交流を深め、調べる学習に取り組んでいます。

## ワールドスクール ～小学校で培った英語力を、中学校でさらに活用して、自信をつけよう！

### 小学校ワールドスクールについて

荒川区の英語教育の一貫として、外国人指導員と一緒に共同生活をして簡単な英会話レッスンをするほか、英語を使ったレクリエーションや自然体験活動などを行う「小学校ワールドスクール」を実施しています。

小学校では、希望する6年生を対象に清里高原で4泊5日行います。英語科の授業で学んだコミュニケーション能力を、実際に活用することによって、英語への興味・関心を高めるとともに生活に密着した英語力を培います。



### 中学校ワールドスクールが始まります

平成28年度から中学生を対象としたワールドスクールを実施します。国内で先進的に英語教育に取り組んでいる秋田市の国際教養大学で実施している「イングリッシュ・ビレッジ」に、荒川区の中学生、30名が参加し、「中学校ワールドスクール」を行います。大学にいる外国人留学生や教員を目指している大学院生と一緒に自分の考えを英語で表現したり、伝えるための表現方法を学習したりすることで、英語を使ったコミュニケーション力やプレゼンテーション力を高めることをねらいとしています。



### 今までの学習に自信をもって

「中学校ワールドスクール」では英語特有の発音の練習を重視するとともに、今の自分の英語力で留学生に積極的に話しかけたり、プレゼンテーションをしたりできるプログラムにより、英語に自信をもたせます。プログラムでは外国からの留学生や大学生が支援に入っておりながら、表現の工夫の仕方などを学びます。

## すべての子どもたちがこれからのグローバル社会をたくましく生き抜くために ～タブレットPC導入で目指すもの

### 「グローバル人材」の育成に向けて



これからの教育では、現在の子どもたちが学校教育を終え、さまざまな職業に就いて社会の第一線で活躍する20年後、そして30年後の「グローバル社会」を見据えた人材育成、いわゆる「グローバル人材」の育成が求められています。

「グローバル人材」の育成は、単に語学力(英会話力)の育成を目指すのではなく、相互理解(コミュニケーション能力)や協調性(コラボレーション能力)、価値創造力(イノベーション能力)、社会貢献意識等、さまざまな資質・能力の育成が想定されています。

これらのグローバル社会に必要な資質や能力は「キー・コンピテンシー」や「21世紀型スキル」と呼ばれ、育成に向けた取組が世界各国で広がっています。経済協力開発機構(OECD)の学習到達度調査(PISA)では、2015年の調査より「協調型問題解決能力」の調査を実施し、「グローバル人材」の資質や能力の測定を始めており、これからの「国際標準の学力」となるものと言えます。

### タブレットPCを日常的に活用する学びのツールとして

荒川区では、すべての子どもたちに、「グローバル人材」の資質や能力を育成していくため、いち早く「学びのツール」として「タブレットPC」を導入し、学校での学びの中でタブレットPCの日常的な活用が始まっています。授業での活用はもちろんのこと、放課後の委員会活動や部活動、校外の遠足や移動教室、学芸会等でも使われています。

また、学校図書館でタブレットPCを使い、書籍・新聞・インターネット等さまざまなメディアを通じ、情報を収集・分析・活用する学びが広がっています。単に調べるだけでなく、ペアやグループで情報を共有して、分析し議論することで考えを深める活動も広がっています。



## 特別支援教育の充実 ～一人ひとりに応じた指導を目指して

### 平成29年度から、小学校の「情緒障がい等通級指導学級」が「特別支援教室」に変わります

平成29年度から、在籍校で特別な指導が受けられるよう小学校全校に「特別支援教室」を設置し、教員が各学校へ巡回し指導を行います。

#### 現在の通級指導学級体制



#### 期待される効果

- ・在籍校で一人ひとりに応じた指導が受けられ、他校に通っていた負担が解消されます
- ・在籍学級担任と巡回指導教員との情報共有や連携が密になり、指導内容が充実します

#### 今後の特別支援教室体制



### 平成28年4月から第四中学校に知的障がい特別支援学級を設置します

中学校特別支援学級設置校は、第一中学校・尾久八幡中学校・第四中学校の3校となります。